

○福島みずほ君 希望の会、社民党の福島みずほです。

今回の補正予算でリニアにどれだけ財政投融资が投入されるのでしょうか。

○国務大臣(麻生太郎君) 一兆五千億です。

○福島みずほ君 本予算ではどれぐらい見込んでいらっしゃいますか。

○国務大臣(麻生太郎君) まだ予算編成作業中でありますので、今の段階でお答えすることはできません。

○福島みずほ君 今まで財政投融资で三兆円以上、今まで三兆円と言っていたんですが、三兆円以上の投入は過去にありますか。

○国務大臣(麻生太郎君) リーマン・ショックのときの日本政策金融公庫に六兆五千億の財投等追加を行っております。

○福島みずほ君 東日本大震災では幾らですか。

○国務大臣(麻生太郎君) 東日本大震災のときは、今このところにちょっと資料がありませんので、よく調べて御返事申し上げます。

○福島みずほ君 二・九兆円です。東日本大震災で二・九兆円。リニアでさっき二兆五千億円とおっしゃいました。かなりの金額を投入する。

それで、今まで、国土交通省第三回中央新幹線小委員会の、部会で、JR東海が出しているのの中には、二〇一〇年五月十日です、ここには、JR東海は自己負担でプロジェクトを完遂する、国に資金援助は求めないとあります。これに反しているんじゃないですか。

○国務大臣(石井啓一君) リニア中央新幹線の整備に際しましては、交通政策審議会の議論におきまして、JR東海の事業遂行能力を総合的に勘案した結果、JR東海が、自己負担を前提とする民間の事業としてJR東海が指名をされたものでございます。

今回貸し付ける財投は、JR東海による利払いも行われまして、元金も全額償還されるものでありまして、JR東海による自己負担の原則を変えるものではございません。

今般の財政措置は、JR東海の事業遂行能力を前提としまして、全線開業の前倒しにより開業効果を早期に発現させることを政策目的として貸付けを行うものであります。JR東海の経営支援を目的とするものではなく、問題はないものと考えております。

○福島みずほ君　しかし、財政投融资は国の保証でやるわけじゃないですか。政治的な介入をやらないために自己資本でやる、国に財政援助を求めないといって認可を求めたことと全く矛盾するというふうに思います。

次に、この社長は、リニアに関して記者会見で、リニアは絶対にペイをしないという発言をしています。赤字のプロジェクトに何で二兆五千億円も入れるんですか。

○委員長(山本一太君)　どなたに御質問ですか。福島君、どなたに御質問ですか。石井国交大臣。

○国務大臣(石井啓一君)　リニアにつきましては、交通政策審議会においてJR東海の財務遂行能力の検証が行われまして、リニア中央新幹線の投資による債務は、大阪開業後のリニア中央新幹線及び東海道新幹線による営業収益で着実に返済できることが確認をされました。すなわち、JR東海が収益力の高い東海道新幹線と一体的に経営を行うことで、経営の安定性を維持しながら事業を遂行することが可能となるとの答申を得たところです。ですから、リニアだけの収益でやるという、償還をするというものではなくて、リニアと東海道新幹線と併せてリニアの借入れを償還をするということでございます。

○福島みずほ君　財務省、赤字のプロジェクトに何で二兆五千億円も財政投融资入れるんでしょうか。

○国務大臣(麻生太郎君)　二兆五千億円と言われておりますが、これによって経済波及効果は、八年間分の財政の前倒し等々の波及効果は極めて大きいと思っておりますし、私どもは、先ほど石井大臣が申し上げましたように、これは金を、税金を集めるのではなくていわゆる融資をするわけですから、当然それに当たっては、私どもとしては融資した分だけ金利は頂戴いたしますし、そういった意味では、私どもは、JR東海、JR西日本の今得ておられる収益は、JR東海だけで年間経常で四千五、六百億円出ていると思っておりますので、そういったようなものも私どもとしては確実に償還していただけるものだと思っております。

○福島みずほ君　赤字だと豪語しているのに、入れるのが分からないんですね。金利はどれぐらいでしょうか。

○国務大臣(麻生太郎君) 今私どもの国債の金利、十年物国債、三十年据置き、十年間返済、トータル四十年、四十年ですから、今〇・〇幾つ、その日によって違いますので分かりませんが、

○福島みずほ君 超低金利で二兆五千億円払ってもらえるわけですね。

現場にずっと二日間掛けて行きました。中央構造線に土手っ腹を空けというか、トンネルを掘ってやるもので、極めて難工事、極めて莫大にお金が膨れ上がるんじゃないか。赤字だって言っているものに入れる、しかも自己資金でやると言ったものに関してですね……

○委員長(山本一太君) 時間が終了しておりますので、まとめてください。

○福島みずほ君 分かりました。はい。

問題があると思います。

これは、安倍総理、葛西名誉会長とこの……

○委員長(山本一太君) 福島君、時間が終了しております。

○福島みずほ君 分かりました。はい。(発言する者あり)分かりました。

一月から今まで、九月までに葛西会長と七回会って、五回会食をしています。

○委員長(山本一太君) 福島君。

○福島みずほ君 その間に、この財政投融资……

○委員長(山本一太君) 福島君。

○福島みずほ君 二兆五千億の話が出たかどうかを聞いたかったんですが、ちょっとそれを聞くことができませんでした、でも、五回会食……

○委員長(山本一太君) 福島君。

○福島みずほ君 はい。

では、それは極めて……

○委員長(山本一太君) 質問を終えてください。

○福島みずほ君 はい。

親密な関係からこれが出たのではないかというふうにも思います。

以上、終わります。

○福島みずほ君 社民党の福島みずほです。

希望の会(生活・社民)を代表し、二〇一六年度第二次補正予算案に対し、反対の立場から討論を行います。

熊本・大分大地震や、この夏の台風十号を始めとする豪雨により亡くなられた方々に対し御冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

被災地の生活再建はまさに緊要の課題です。しかしながら、本補正予算案は、財政法二十九条が定める補正予算の緊要性に照らし、多くの事業が不適切であると言わざるを得ません。

まず第一に、経済対策を講ずること自体がアベノミクスの失敗を意味しています。家計消費は本年二月のうるう年効果を除けば十二月連続でマイナスです。簡素な給付措置を実施することにしましたが、社会保障の負担増が続き、可処分所得が伸び悩む中、緊要である消費の底上げには不十分です。

第二に、アベノミクスの失敗で税収も伸び悩み、結果的に建設国債と財投債を発行しますが、リニア中央新幹線の全線開通前倒しや港湾整備など、旧来型の大型公共事業への回帰にほかなりません。

第三に、TPP承認前にもかかわらず、昨年度以上のTPP関連対策費を計上することは問題です。さらに、未来への投資の名の下に防衛費を増額することは許されません。

今まさに緊要であり、未来への投資として重要なことは、子育て、教育支援や将来不安を解消するための社会保障の拡充、被災者生活再建支援金の増額など相次ぐ災害への支援です。

以上申し上げ、反対討論を終わります。